

はじめに

青年会議所に在籍できるのは20歳から40歳までに限られたあつという間の時間です。また、この年代は会社や家族から常に頼りにされている責任世代であり、誰しも「忙しい」や「時間がない」という言葉を使ってきたことでしょう。しかし、先輩方は、地域の様々な問題や課題を乗り越えるために事業を立ち上げ、悩みながら失敗しながら懸命に取り組み、限りある時間の中で志を同じくする仲間と共にそのひたむきな背中を見せ、次の世代に繋いできました。そんな先輩たちの背中を見て私は「志」や「使命感」の意味を知りました。

その「志」を受け継ぐべき我々に必要なものは「成長」であり、その手段が「自己変革」です。自分の事を変える事のできない者には、地域や世界を変えることはできません。例えば、自転車に乗りたいと願い、自転車に乗れない自分を自己変革しようと決心したとします。自ら乗ろうと決意し、挑戦する。なかなか思うように乗れず、時には派手に転ぶ。痛みや恐怖に耐え、何度も失敗する。しかし、一度乗れるようになると、今まで見た事のない景色が広がり、今までに感じたことのない爽快感を感じる事ができる。そのような経験が誰しも一度はあるはずで、それが自己変革であり、その先にあるのが成長です。成長とは今まで見えなかったものが見えるようになることです。そして、成長すれば強くなります。やさしくなれます。より良い社会を築いていくためには我々の成長が不可欠なのです。

もし、目の前に困難な道があるのなら、先駆けてその道を進んで欲しい。一歩でいいから進む勇氣を持って欲しい。もし、それが千人の仲間と共に歩む一歩ならば、その一歩には千歩以上の価値があります。もちろんまっすぐ前に進むばかりが道じゃない。たまには遠回りするのも戦略ですし、時には引き返かえす勇氣も必要です。ただ、歩みを止めないで欲しいのです。全ては明るい豊かな社会の実現のために。共に歩みを進めていきましょう。

新たな資本主義の確立へ向けて

我々の住み暮らす地域の方に将来の経済状況を尋ねると「不安である」と答える方が多いと感じています。なぜ、皆が口々に「不安」と答えるのでしょうか。それは「消費型経済」の限界がすぐそこに来ているためと考えます。「消費型経済」は消費が拡大し続ける事が大前提であり、人口やマーケットの減少はすぐに不況を招きます。人口減少が避けられない現在、次世代のために我々責任世代がこの現状を変える事が急務です。では、どのように変えるのか。そのヒントは旧日本型経営にあると考えます。いつの間にか日本経済は貨幣だけが最大の価値となり合理化・効率化のみを求めるようになってしまいました。しかし、かつての日本の経営者達は貨幣の為でなく、困っている人のために「不安」や「不便」を解消しようと考え働いてきたのです。「傍（他人）を楽にする」が「働く」の語源であるとも言われています。そこで生まれた義理や人情を大切にすることで、皆が良い関係を築ける。これが旧日本型経営です。もちろん、貨幣をなくして物々交換の時代に戻れとか、原始時代のような暮らしをしろと言っているわけではありません。それらを生かした新たな経済に必要な

ものが「共感型経済」と言われる新しい資本主義だと考えます。「知識」「関係」「信頼」「評判」「文化」といった目に見えない資本を大切にします。そのあり方は青年会議所の運動そのものでもあります。

過去と現在の矛盾をとことん考え、良いところを活かす。新たな可能性に賭け挑戦する。たとえその運動が小さな揺らぎであっても、多くの人を巻き込めばその揺らぎがやがて大きな渦になり、変革を起こすことができるはずです。また、現代に生きる我々にはインターネットをはじめとする便利で可能性を秘めたツールが沢山増えました。これらを最大限に活用することで新たな大きな渦を起こすことが容易になっているのです。これまでの「消費型経済」を「共感型経済」へと変え、「新たな資本主義」を確立できればきっと「幸せ」の定義も変わります。

次世代に残すのはお金ではなく「幸福感」です。ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏の言葉に「貧乏なひととは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」とあります。「消費型経済」の終焉まで我々に残された時間はわずかです。時間という絶対に取り戻せない資源を有効に使い、新たなパラダイムの確立に向け果敢に挑戦していきましょう。

次世代が輝ける未来創り

赤平青年会議所 OB で歴代理事長の植松努先輩が動画配信サイトにてとても有名になった「どーせむりをなくしたい」という言葉があります。「どーせむり」とは、あきらめる言い訳に簡単に使えます。人の自信を一瞬で奪ってしまう恐ろしい言葉です。人は生きていくためにはどうしても自信が必要です。植松先輩は「だったらこうしてみたら」で、夢はかなうと言っています。私はこの言葉を聞きとても感動しました。「夢」とは今できないことができるようになるのが「夢」です。例えば「今日の晩御飯は美味しいラーメンがいいな」も夢です。「どーせむり」と、他人が決めることでも、自分であきらめることでもないのです。

「ラーメンが食べたい」という夢をあきらめず進むことが大切なのです。そして、あきらめないための手段として、様々な選択肢があるのも「夢」です。今日は美味しいラーメン屋さんが閉店してしまったのなら「だったら明日にしてみたら」で、叶うのかもしれないのが夢です。「だったらラーメン自分で作ってみたら。そうしたら好きな時に好きなだけ食べることができるよ」で夢は広がるのです。常にできる理由を考えるのです。ないなら自分で作ればよいのです。作ったものを欲しいという人がいれば、それが仕事になるのかもしれませんが。たとえ失敗してもそれが必ず経験になります。無駄なものなんてなに一つありません。

しかし、我々親世代は「危ないからやめなさい」と子育てをしてしまいがちです。実は危ないからこそ、やったことがないからこそ子ども達はやってみたいのです。その、危ないことを安全に成功体験に導くのが我々親世代の努めであり、本来の教育の姿なのです。教育とは失敗をいけないことと教えるものではありません。成功体験を増やすために行うのです。

ただ、成功の裏側には必ず失敗はつきものなのです。だからこそ、そばで見守り、ときに励まし、いざというときには手を差し伸べるのが教育なのです。

次世代が将来社会から求められるものとは「学歴」といった目に見える価値だけではなく「経験」や「自信」といった目に見えない価値が強く求められていくのです。次世代の可能性を最大限に発揮できる環境創りが必要不可欠です。

しゅきやくいちによがた 主客一如型の会員拡大

禅宗の言葉に「主客一如」という言葉があります。これはもてなす側の主人ともてなされる側の客人が互いの気持ちを理解しあい、互いの立場が一緒になるという意味です。

私の入会したきっかけは私が勤める会社のお客様から入会を勧められたことでした。私は何か新しいことを始める前ですから不安でいっぱいでした。そんな私の不安な気持ちをその先輩方は理解してくれました。熱心に声をかけ、私の話を聞いてくれる先輩方を見て「この方たちは自分の利益だけで言っているのではないな」と感じ、その熱い想いを肌で感じ「相手の気持ちを理解しなければ」と自然と思うようになっていました。

思い返せばあの時入会していなかったら、私の人生にこれほど多くの大きな影響を与えてくれた貴重な経験や仲間を得ることはなかったのです。青年会議所に入会すれば多くの仲間や経験ができる、成長できるといった想いを本気になって相手に伝えれば、もっと多くの仲間に出会うことができます。私も先輩方の「主客一如型会員拡大」によって入会した会員の一人です。まずは相手の気持ちになって、本気で魅力を伝える。互いにある利益を分かち合い、互いに心からもてなす「主客一如」の関係になる事がとても大切です。

そして拡大はメンバー全員が真剣に取り組まなくてはなりません。「きっと誰かがやってくれるだろう」では成功しませんし、そんな無責任な人たちが集まる組織には魅力がないからです。近年、各地会員会議所の会員数は減少傾向であった状態から増加傾向に転じています。笠間青年会議所も昨年度は多くのメンバーが入会しました。これらの結果は、それぞれ近年の青年会議所には素晴らしい輝きがあることの証明であると思います。まずはメンバーが多くの事業に参加し、価値を知る事がスタートです。そして、皆様のその素晴らしい魅力を発信してください。

そして常に忘れてはいけないものは情報収集です。この地域に入会しそうな魅力的な人材がいるという情報があればどんな些細な事でも構いません。情報を収集しその情報を多くの人間が共有することで、多くの出会いや学びを得ることができます。

声をかける前からあきらめることは互いの利益になりません。相手のためを思って入会を勧めていただいて結構です。それだけこの組織には魅力があります。みんなで自信を持って会員数を増やし更に素晴らしい組織を目指しましょう。

積極的な感情的価値を呼び起こす情報発信

我々が地域から求められている価値は「関係」「信頼」「評判」などといった目に見えない資本です。その価値において最も重要なものが情報発信です。近年、携帯電話やインターネットの普及により短時間で大量の情報を得ることができるようになりました。この情報はただ機械的に配信しては、それほど受信する側の人の心に響きません。受信者がその情報によって喜怒哀楽といった感情を強く呼び起こす。そのような情報を発信するとあっという間に伝播します。どんなに機能的価値を高めても感情的価値がなければ意味がありません。伝える側が誠意をもって、腹の底から伝えたいことを発信することがとても大切です。

同じく、会員同士の情報の共有も大切です。ほんの数年前まではメンバー同士の情報共有をするのにも、大変な労力とお金がかかったそうです。手紙や電話 FAX 等を駆使してメンバー全員で協力しなければできませんでした。しかし、現在は電子メールや様々なアプリがあり、連絡を取るのが容易になりました。とはいえ、連絡の一方通行になってしまっただけでは意味がありません。機能的価値は日々進化している中で、誠意をもって相手に伝え、感情的価値を高める努力がこれまで以上に必要とされています。

情報発信は鮮度と量と真偽が大切です。そして、自分の価値を一番知っているのが自分です。自分の目で見聞きしたものを詳細に発信していくことで、目に見えない資本を積み上げることができるのです。様々な相手の立場になって何が知りたいのか考え、情報を発信していきましょう。

これからのリーダーに求められている資質はその表情やしぐさなど細部にまで至ります。悪い噂ほど広まるのは早く、一度流れてしまった悪い噂を良いものに変えるのは容易ではありません。我々はこれまで先輩たちが築き上げてきた歴史と伝統を受け継ぎ、次世代にそれらをさらに良いものにしてつなげていくことが使命です。苦手だからと逃げていると、置いていかれるのはあっという間です。積極的な感情的価値を高める情報発信が必要とされています。

出向の意義

出向には多くの学びがあります。私自身、ほぼ毎年出向をしています。なにより出向は楽しいもので、近年では自ら志願していくようになりました。

出向のきっかけは先輩に無理やり行かされたというものでしたが、今思うとやはり無理やりにでも出向を推進してくれた先輩に感謝しています。LOMのように互いの性格や素性のある程度見聞きしているわけではない集まりの中で、何かを成し遂げるのは本当に大変です。しかし、それだけ多くの学びがあるのです。よく「人は人でしか磨かれない」といいますが、出向は自分磨きには最高のステージです。

そして、素晴らしい仲間にも数多く出会うことができるのも出向の魅力です。単年度制であるため出向の仲間たちと運動できるのは本当に少ない時間です。しかし、その短く濃密な時間を全力で過ごせるから生涯忘れられない仲間になるのです。また、豪傑と呼ばれるような

人物に出会える可能性もあります。そんな人物に出会えると視野がさらに広がります。一年の担いが終わったその後何年たとうとも、顔を合わせればまるで昨日のことのようになると同時に当時の思い出話で盛り上がります。そんなかけがえのない仲間に出会うことができます。

もちろん積極的に参加しなければその機会を活かすことはできません。時間を作り参加することに意味があるのです。忙しいと言い訳して何もしなければ成長など望めないものです。互いに心から尊敬しあえる素晴らしい才能を各人が持ち合わせ、創り上げた事業は輝きが違います。その心からの喜びを皆さんにも感じてほしいのです。

そして出向で得た経験や知識を LOM に持ち帰り、地域活性化につなげて下さい。出向を恐れることはありません。みんな不安な中で出向をしているのです。そんな同じ気持ちの仲間同士だからこそ助けあえるのです。ぜひとも自分を磨き続けてください。

結びに

青年会議所は誰かに言われて、誰かにお願いされて立ち上がった団体ではありません。戦後間もない苦難の時に「新日本の再建は我々青年の仕事である」と、自ら立ち上がった団体です。そして、その想いは当時 JCI 会頭であったフィリピン JC 出身の、ラモン・デル・ロザリオ氏の言葉により歓迎を受けました。「JC には、国境も民族もない。それは、全世界の青年のものである。その誇りにおいて、われわれはいまここに、かつての敵国日本の JC 代表団を心からなる歓迎をもって迎えようとする」この想いは今も私たち現役の中に脈々と受け継がれ、今日に至っています。

しかし、入会前や入会したばかりの当時、誰しものがそのような熱い JC の姿に驚きと違和感を覚えたことでしょう。その原因は今ある幸せが昔から当たり前にあるといった思いあがりや、きっと誰かがやるだろうという無責任感からなのかもしれません。

現在の私たちは、戦後焼野原の苦難の中で先輩たちが立ち上げた打開策「国内経済の充実」と「国際経済との密接なる提携」により、当時と比べるとはるかに平和で安全で豊かに暮らしています。しかし、そのような暮らしをしている我々にも数多くの問題があり、それらを解決できなければ、戦後焼野原以上の苦難の時代になる可能性があるのです。我々は先輩たちが築き上げた貯金を食いつぶして、ただ生きているだけの存在になってはいけません。けしてあきらめず未来のために「明るい豊かな社会」を築き上げる努力を続け、次世代につながなくてはならないのです。我々は魂の部分で結びついている仲間です。ぜひ仲間を信頼して安心して豪快に挑戦してください。失敗したって気にする事はありません。人生は一度きりですが、生きているうちなら何度でもやり直せます。間違えて恥をかきたくないから何もしない馬鹿より、全力で何かやって間違える馬鹿になってみませんか。

「青年」という意味を辞書で引くと「青春期の若い男女」という意味でした。「青春」の言葉の由来を調べてみると、春を表す言葉が転じて、人生における若く未熟で、しかしながら元気で力に溢れた時代を指すそうです。我々はまだまだ未熟でいわゆる「青臭い」とか「青

二才」と言われる存在です。しかし、炎が完全燃焼した場合、最も高い温度で燃えたときの色も青です。その先にある色はきっと「燃えカスなど残らない燃え尽きるほどの充実感を味わったもの」にしか見ることはできません。私は、その先にある色を皆さんと共に見てみたいのです。一年間最後までどうぞよろしく願いいたします。